

スター保険 第4回スター倶楽部定例会開催 ウェブ形式で21年度方針発表

スター保険は1月21日、第4回スター倶楽部定例会を開催した。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮し、東京都千代田区にある同社会議室からウェブ形式で2021年度方針などを発表した。中澤良平CEOは、2019年に始まった新中期経営戦略の最終年度に当たる本年度で事業計画の達成を目指す考えを示した。同社の主要代理店15社から21人のマネジメントが参加した。



中澤CEO



根本会長



猪谷名誉会長

定例会の冒頭、今年度 小企業向け会社役員賠償 からスター倶楽部の会長 責任保険「スター・マネジメント・ライアビリティ」の取り組み意義について説明した。昨今の役員賠償に関する事件や顧客に保険提案した際のやり取りなどを紹介した上で、「非常に先進的な保険をしっかりと提案できることが品質を持つ代理店としての力である」と述べた。

次に、スター保険の中澤CEOが20年度の業績報告と21年度方針を発表した。最初にコロナ禍での日々の活動協力について感謝を述べた後、スター

カンパニースの状況やトピックス、スター保険の業績について報告。スター保険は19年度に始まった3年間の新中期経営戦略の下、2年間で18年度対比160%の成長を遂げており、21年度には18年度対比200%となる事業計画の達成を目指すとした。また、今年

総合代理店ビジネス分野でのコンセプトとして、スピーディーな対応、創意工夫、実行力を持った業務の推進を掲げているとし、「皆さまにさまざまなビジネスモデルを提案したり、新しいアイデアや商品のニーズについて話し合ったりしながら、スター保険とスター倶楽部の新しい風を日本マーケットに吹き込めばと考えており、引き続きご支援をお願いしたい」と述べた。最後に直近の活動報告を行った。続いて、各部門の責任者が21年度方針を発表した。清水偉彦営業部長は、21年度の営業体制を紹介した後、活動方針についてコミュニケーションの強化をメインとしたプランを述べ、ウェブによる研修や研修動画の作成にも注力するといったコロナ禍への対応策を発表した。

中期経営戦略の達成目指す

チーフ・アンダーライティング・オフィサーの根本隆A&H部部長は、A&H分野の21年戦略について報告し、商品戦略では、主力の業務災害包括補償保険に関して、疾病補償や安否確認サービス等の付帯サービスでの商品力強化を紹介した。また、引受戦略については、独自代理店システム「ONESTAR」の機能強化によるお薦めプランの作成や引受申請手順の簡素化等について説明した。

田中良之新種保険部長は、21年戦略について紹介し、商品戦略では独自の中小企業向けD&O保険、スター・マネジメント・ライアビリティ(SML)に関する業務災害包括補償保険とのパッケージ販売の推進と会社法改正に伴うニーズ喚起を挙げた。また、引受戦略については、SML勉強会資料の作成や見積依頼ソフトのリリースによる効率アップの考えを示した。最後に優待代理店を代表して、(株)保険セブンの佐々木社長より、21年度の目標としてスター保険の業務災害補償保険のより一層の拡販を進めたいとのコメントがあった。また、定例会終了後には、ウェブを通じた懇親会を開催。スター保険の猪谷千春名誉会長が乾杯とオープニングスピーチを行った後、参加者たちはあらかじめ届けられた料理や飲み物を取りつつ画面越しに歓談した。マッシュ総研(株)の清岡社長の中締め言葉で散会となった。